

舌木口金

この夏は雨が多い。美ら島総体の高校生には誠に気の毒だが、おかげで水事情はしばらく心配なさそう。

その水問題を議論するため、国内外の高校生が沖縄に集まり、約3週間寝食を共にすることをご存じだろうか▼3回目を迎えた内閣府の「アジア青年の家」事業のことだ。すでに事前研修が始まっており、アジアなど15カ国の32人と国内の48人(うち県内16人)が23日まで県内各地で共同生活を送りながら交流する▼今年には「生命を支える水」がテーマ。21世紀の国際社会の大きな課題となるであろう水や食糧問題などについて共通の理解を深め、地球的規模の環境問題や国際協力などについても討議を重ねる▼楽天などの大手企業で英語を社内の公用語とする動きが広がっているが、アジア青年の家に集う国内の高校生も英語で海外の若者と意見をぶつけ合う。異なる文化や価値観に触れ、自身の能力を高められる貴重な機会だ▼各国からは大使館を介して選ばれた優秀な若者たちが参加し、沖縄の歴史や文化を学ぶ。県内からの参加者が海外や全国の同世代の人たちとより多くの関係を築いてくれることを願う▼地味だが、こうした事業こそ沖縄の将来に大切だと思う。だが今後も続くかどうかはまだはっきりしていない。総体のほかにも沖縄で熱い夏を送る高校生たちがいることに関心を寄せたい。

2010年8月10日